

番号	主な意見	発言委員	回答	県土整備プランにおける 関連政策・施策 (掲載ページ)	関係課
1	草津温泉は観光が基幹産業であり、火山活動を要因とした道路の通行止めによる観光への影響を痛感している。	市川委員	現在、国道292号は、草津白根山防災会議協議会で作成した「避難計画」に基づき、安全対策を講じた上で、噴火警戒レベル2における立入規制区域での通行を例外的に認めている。(8:00~17:00、自転車、バイク、オープンカーを除く車両のみ通行可)なお、通行にあたっては、開通前にパトロールを実施して、路面状況、湯釜火口付近での天候や火口の状況を確認した上で、通行者の安全を最優先して開通の判断をしている。	政策3-施策3 災害時にも機能する社会資本・体制整備 (P53~P55)	道路管理課
2	草津温泉は湯畑周辺の無電柱化をした結果、非常に評価が高かったため、観光地や歴史的な街並み等における景観形成に当たっては、無電柱化を進めてほしい。	市川委員 茂原委員	「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」チェックシートの中で、観光地や歴史的なまち並みについて、無電柱化について検討する項目を設けている。 無電柱化については、観光振興に向け、観光資源や歴史ある文化遺産と一体となった魅力ある景観づくりに重要と考えており、富岡製糸場や甘楽町小幡地区など主要な観光地周辺での事業実施を推進していきたい。	政策8-施策1 地域に誇れる景観づくり (P82~P83)	道路管理課 都市計画課
3	鉄道やバスなどが乗りやすくなるよう、交通系ICカードの導入を進めてほしい。	茂原委員	今年度、路線バスへの交通系ICカード導入支援制度を創設した。国1/3補助に加え、県でも1/3を補助することで、県内路線バスへの導入を促進していく。	政策7-施策2 鉄道・バスが運行されている地域の移動手段の確保 (P77~P80)	交通政策課
4	日本風景街道やロマンチック街道などの既存の取組を活用しながら、景観に配慮し、地域資源を活かしていくような道づくりをしてほしい。	湯沢委員長	「日本風景街道」では、「単独景観整備事業」にて防護柵等の更新に際して、景観配慮色を採用するなど、風景に調和した整備を行っており、引き続き地域資源を活かした道づくりを実施していきたい。 「7つの交通軸」の主軸(吾妻軸)である上信自動車道は、自然景観の眺望に優れており、特に、長野原嬭恋バイパスにおいて、その地域資源を魅せる視点場の整備を検討している。	政策8-施策1 地域に誇れる景観づくり (P82~P83)	道路管理課 道路整備課 都市計画課
5	市町村が作成しているウォーキングマップ等とリンクさせながら、ヘルシーやフィットネスという観点も踏まえた、楽しめる道路の整備を考えてほしい。	佐藤委員	「歩いて暮らせるまちづくり」は、医療費の抑制など、健康面での効果も報告されていることから、引き続き、市町村と連携しながら、歩きたくなるまちづくりの実現に向け「まちのまとまり」を維持し、まちの賑わいの創出や利便性の向上に寄与する施策を検討していきたい。	政策6-施策1 まちのまとまりとネットワークの形成 (P68~P71)	道路管理課 道路整備課 都市計画課
6	「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」を進めるに当たっては、ハード整備とセットでソフト事業を実施してほしい。	永村委員	景観全般についての意識向上を図るため、県と市町村の土木担当職員を対象とした「景観研修」を昨年度から実施している。また、一般県民を対象とした「景観講演会」を開催することにより、県民の景観に対する意識の醸成に努めているところである。 なお、「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」のモデル事業にも選定されている、安中市の市役所に隣接した中心市街地を通過する都市計画道路南北中央幹線では、専門家とともにワークショップ形式により地域住民と協働で、地域の特性を見出し、その特性に合わせた景観設計に取り組んでいるところであり、今後も地域の魅力を活かした景観づくりを進めていきたい。	政策8-施策1 地域に誇れる景観づくり (P82~P83)	都市計画課
7	「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」を進めるに当たっては、若い人に「いいね」と言ってもらえるよう、パワーとアイデアがある学生や若い人たちの意見が拾えるような仕組みをつくってほしい。	佐藤委員	「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」については、事業完成時に、完成状況をSNSに掲載することにより、若い人たちに対しても情報発信をしていくことを予定しており、意見を取り入れていきたいと考えている。	政策8-施策1 地域に誇れる景観づくり (P82~P83)	都市計画課
8	ハッ場ダム周辺においては、ダム湖面や特徴のある橋梁等の景観が見られるような休憩場所等(視点場)に関する配慮をしてほしい。	湯沢委員長	多くの観光客の利用が見込まれる国道145号から、ダム湖や橋梁などの景観を一望できるよう、景観を阻害している道路沿いの立木について、ダム湖の完成を踏まえ今年度に伐採する予定である。 なお、ダム湖周辺では、公園内の展望エリアの整備や地域振興施設内における展望室の設置など、気軽にダム湖や橋梁の景観を楽しんでいただけるよう、ダム湖を前提とした施設整備を進めているところである。	政策9-施策2 ダム湖を活用した新たな魅力づくり (P88)	特定ダム対策課
9	子どもが川に降りて水辺でふれあえるようにするため、川をきれいにする下水道の整備や下水道への接続率向上を進めてほしい。	茂原委員	整備については、H30.3に見直した「群馬県汚水処理計画」に基づき、県と市町村の連携により、下水道等と合併処理浄化槽のベストミックス並びに汚水処理施設の統廃合を進め、汚水処理施設の建設コスト、維持管理コストの削減を図るとともに、市町村への施設整備等に関する汚水処理施設整備費補助の活用促進を図り、汚水処理人口普及率の向上を図っている。 また接続については、汚水処理施設整備費補助として、下水道へ接続する個人への補助制度を持つ市町村への補助を実施している。 合併処理浄化槽については、転換促進を図るため、転換を行う個人への補助制度を持つ市町村に対して、補助を実施している。	政策10-施策1 生活環境の保全 (P91~P92)	下水環境課
10	子ども達や訪れる人にとって、ゆったりした風景を創出するため、川に降りて水辺でふれあえるような雰囲気をつくってほしい。	茂原委員	河川整備にあたっては、「多自然川づくり」を基本とし、河川が本来有している環境及び多様な河川景観の保全・創出に配慮するとともに、可能な箇所においては緩傾斜河岸とするなど親水性を高めるよう努めている。(男井戸川、桜川、孫兵衛川など) このほか、みなかみ町の利根川では、かわまちづくり計画を策定し、利根川と隣接する道の駅において、町、民間事業者及び地元住民と連携し、水辺に近づける賑わいのある親水護岸やオープンカフェなどの整備を進めている。	政策10-施策2 自然環境の保全 (P93~P94)	河川課